

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年1月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1170800807
法人名	有限会社 新生・ケア・コミュニティー
事業所名	グループホーム オ・ハナ
所在地	〒343-0046 埼玉県越谷市弥栄町3丁目43番地189号 (電 話) 048-970-4848
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年1月15日

【情報提供票より】(平成20年12月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	10 人	常勤 3人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000～45,000 円		その他の経費(月額)	20,000円 + 実費	
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日あたり 1,500円				

(4) 利用者の概要(12月18日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.1 歳	最低 79 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新田整形外科、あまり歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、郊外の閑静な住宅街の中にある普通の民家を改造した2階建の建物である。1階にはリビングや台所等があり、2階が居室となっている。定員6名と少人数であり、利用者一人ひとりのペースを大切に、好みに合った暮らしを送れるように支援している。歌を歌ったり、絵や工作、庭の植物や野菜の世話、散歩をしたりして、利用者は職員と一緒にゆったりとした雰囲気の中で生活している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の課題については、すぐ職員会議を開催して全職員で検討するなど、課題の改善に向けての意欲が非常に高い。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、全職員に意見を聞きながら管理者がとりまとめを行っているため、職員の意識の共有化が図られ、業務の振り返りの良い機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、これまでに1回の開催にとどまっている。自治会長や老人会の会長等の地域代表の人達との日程調整がうまくいかず、その後は開催されていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族へは毎月の収支報告と一緒に利用者一人ひとりの生活状況を知らせている。変化があればその都度電話、手紙等でこまめに連絡している。また、家族からの要望があればすぐ対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、地域のお祭りや文化祭などに積極的に参加している。地域の方には、庭の手入れ、散歩、理美容等にボランティアで来てもらい、地域との交流に努めている。また、四季毎に発行している「オ・ハナ便り」は近隣にも配布され評判が良く、交流のきっかけにもなっている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの名称の由来ともなっている「家族愛」を中心とし、お互いの思いやり、一人ひとりのペースや地域の人々との交流を大切にすることを目標とした事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が折にふれ、ケアの原点として理念の確認をし合い、その実践に向けて努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、祭りや文化祭などに積極的に参加しているほか、地域からは庭の手入れ、散歩、理美容のボランティアに来てもらって交流を図っている。また、近隣に配布しているホームの機関紙「オ・ハナ便り」が好評で、交流のきっかけにもなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については全職員で話し合い、意見を聞きながら管理者がとりまとめている。職員間では意識の共有化が図られ、業務の振り返りの良い機会となっている。また、前回評価の結果については、すぐに職員会議で内容を確認、検討した上で課題の改善につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はこれまでに1回実施されたが、その後は自治会、老人会の会長等との日程調整がうまくいかず、開催できずにいる。	○	運営推進会議は、利用者サービスの向上、事業所運営に重要な役割を果たすものであるため、関係者との調整を行い、早急に再開することが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する会議や研修会等に出席するようにしている。また、運営上の問題等については、そのつど担当者に関わり合い相談するなど連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは毎月「オ・ハナ便り」を収支報告書と一緒に送付して、日々の暮らしぶりや健康状態等を知らせている。急な変化があれば、その都度電話、手紙等でこまめに連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に変化があるような場合や医師の往診の時などは来訪を求めている。その際、職員は必ず面接するよう心がけ、家族からの要望にはすぐ対応するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないが、異動があった場合は、全職員で話し合っ言葉かけや接し方を工夫し、ダメージを少なくするよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市の研修会、勉強会にできるだけ参加している。また、資格取得のための専門研修等も機会があれば受講するよう勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入して交流を深めている。また、市の介護保険の部会の勉強会や交流会にも積極的に参加している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みがあった時点で家庭訪問をしたり、ホームへ繰り返し来てもらい、馴染んだ上で納得して入居してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	少人数のため、利用者と職員は家族のような雰囲気の中で共に支えあって生活している。利用者も体調をみて力を活かしながら調理や掃除の手伝いなどを行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家庭的な雰囲気の中で、利用者との会話や家族からも情報を得て、本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃から利用者家族の意向、要望の把握に努め、また、本人の状態を観察し、それらのアセスメントをもとに関係者と検討して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6か月に1回の見直しを行っている。個別には本人の生活や健康状態に変化があれば、そのつど関係者と協議して見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院、退院、遠出の外出等、本人や家族の要望には、職員の勤務体制を工夫するなどして、できる限り柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医による往診が月2回あるほか、歯科医も個々の契約で月2回訪問診療している。皮膚科、糖尿病の方などはそれぞれのかかりつけ医に通院している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に家族に対してターミナルケアの考え方や取り組みについて十分説明するとともに、家族と医師、ホーム側とで協議を重ね、全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的な言葉かけや口調にも注意し合って、尊厳を傷つけることのないような対応を心がけている。また、個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課は決めずに、それぞれのペースでゆったりと生活することを支援している。利用者一人ひとりの希望や好みに応じ、歌を歌ったり、手芸、貼り絵、植物の世話、散歩などを楽しんでもらっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中、職員は介助する一方になることなく、利用者との会話を楽しみながら一緒に食べている。調理では職員中心であるが、利用者もできる範囲で皮むき、配膳、食器洗い等を手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴する時間帯や曜日を固定せず、希望に応じていつでも入浴できるようにしている。入浴を拒否する利用者には、言葉かけのタイミングなどを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力や好みに応じて手伝ってもらったり、趣味を取り入れて、役割や楽しみのある暮らしを支援している。また、納涼祭やクリスマス会など年間のイベントでは利用者も一緒に参加して楽しむなど、利用者にとって喜びのある生活となるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は周辺や公園の散歩、買い物などを一緒に楽しんでいる。また、季節によって桜やコスモスの花見、菊花鑑賞などに出来る限り外出し、気分転換できるよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には日中施錠せず、自由に暮らせるように支援している。なお、以前は不安定な利用者もいたため玄関にセンサーをつけていたが、現在は鈴をつけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと避難訓練を行っているが、記録を保存していない。地域へは「オ・ハナ便り」で協力の呼びかけをしている。	○	居室が2階であり、避難は内階段と避難ハシゴのみであるため、消防署の指導のもと、利用者の状態を良く把握した上で避難訓練を実施されたい。また、地域との連携をさらに強化して協力体制を確立することが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量については毎日把握するようにしている。摂取量が不十分な場合は、代替を用意したり調理を工夫することで、必要摂取量の確保に努めている。献立に関しては、保健所の栄養士にチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は家庭的な雰囲気となっている。また、リビングには利用者の手づくりの壁絵や花を飾るなど工夫して、季節感を味わえるように心がけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室と洋室があり、それぞれ大きさも異なり、利用者の好みに応じて飾り付けや家具の配置がされている。位牌や写真、本人の思い出の品などを持ち込んでいる方もいて、安心できる居心地の良い空間が確保されている。		